

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団
公演団体名	スターダンサーズ・バレエ団

内容
<p>(小学校)</p> <p>ダンサーたちと一緒に児童の皆さんにも身体表現を体験していただきながら、公演における共演シーンの練習を行います。</p> <p>まず始めに、柔軟や体操で身体をほぐし、その後ダンサー達によるいろいろな表現方法を見学します。そして次には児童の皆さんが、言葉を使わずに「はい」と「いいえ」など基本的な身体表現から体験していきます。また、リズムにのった動きも取り入れ、3拍子(ワルツ)の踊りに挑戦します。その後、公演第2部「シンデレラ」の物語のなかで、児童の皆さんが演じる役割を説明しキャストを決め、振付者の指導のもと、それぞれの動きを練習します。その際自分たちでも表現方法を考え、工夫できるよう促します。最後には音楽に合わせて演じて仕上げとし、公演当日の本番にそなえます。</p>
<p>(中学校)</p> <p>言葉を使わない身体表現に触れ、コミュニケーションの発信と受容の相互について理解するとともに、バレエを活用した振付を体験し、「文化芸術による子供の育成事業」公演第1部において発表できるよう準備をします。</p> <p>まず始めに、柔軟や体操で身体をほぐし、その後ダンサー達によるいろいろな表現方法を見学します。次は生徒の皆さんが単純な身体表現から体験し、さらに全身を使った大きな表現へと発展させます。リズムにのった動き等と組み合わせて、仲間とかかわりながらまとまった作品を仕上げ、グループ発表を行いながら、公演当日の舞台上での発表を目指します。</p>

タイムスケジュール (標準)
< 13:30WS 開始の場合 >
12:30 学校入り、準備
13:30 ワークショップ開始
15:00 ワークショップ終了

派遣者数
指導者 6名
合計 6名

学校における事前指導
特になし

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	公益財団法人スターダンサーズ・バレエ団
公演団体名	スターダンサーズ・バレエ団

演目
第1部 「バレエってなんだろう」 構成・演出： 小山久美
第2部 「舞台をみてみよう」 『シンデレラ』 原作： シャルル・ペロー 作曲： セルゲイ・プロコフィエフ 演出・振付： 鈴木稔

派遣者数
合計 55名 出演者 30名 スタッフ 25名

タイムスケジュール（標準）
公演前日 搬入、仕込み（約3時間）
公演当日 9:00 到着
10:00～リハーサル
12:00～準備
13:00 開場
13:30～15:40 公演
～18:00 撤去、搬出

実施校への協力依頼人員
公演前日に搬入と仕込み準備を行わせていただきたく（約3時間）、ご了承のほどよろしくお願 いいたします。

演目解説

照明や音響の器材を持ち込むだけでなく、体育館の舞台を張り出させてスペースを広げ、舞台を使った上演を可能にすることにより、すべての児童生徒たちがダンサーの足元までよく見え、本物の舞台体験にできるだけ近づけるようにします。

第1部「バレエってなんだろう」

簡単なバレエの成り立ち—— ヨーロッパで生まれた踊りであるバレエと、日本で生まれた踊りとの違いなどを説明し、身体の動きを通して文化の違いを感じてもらいます。

実際のバレエの動きを説明—— ダンサーのレッスンの様子やデモンストレーションを短くまとめて行います。いくつかのシンプルな動きを児童生徒の皆さんに紹介し、舞台上でも一緒にやってみます。小学生では男性に持ち上げられる“リフト”を、中学生では女性をエスコートすることに挑戦します。そして、言葉を使わないバレエで使われるマイム(手で表現する方法)のうち基本的なものを紹介し、次に続く第2部をより理解しやすいように導きます。

児童・生徒による作品発表—— ワークショップで取り組んだ作品を発表していただきます。

第2部「舞台をみてみよう」

『シンデレラ』

誰もが知っているお話で非常にわかりやすい構成になっています。意地悪なお姉さんたちなど楽しく愉快的シーンや涙がほろっとするような心に響くシーンなどが、美しいプロコフィエフの音楽によって繰り広げられます。長さもダイジェスト版として約40分にまとめました。舞台シーンの転換時には短い解説も挿入されます。

小学校では、ワークショップに参加した児童の中から実際の舞台に出演していただき、バレエ団との共演が実現します。

舞踊は音楽、美術、演劇と並ぶ芸術のひとつです。第1部で見て体験したバレエの動きが、第2部の作品ではどのように使われて表現されているか、楽しく鑑賞しながら自然に理解できるように工夫されています。また、言葉を使わないバレエだからこそ、頭で理解するのではなく心で感じてもらい、コミュニケーションの原点を見つめられるようプログラムが組み立てられています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

第1部におけるバレエの動きの説明では、簡単な動きをいくつか選び、数名の児童生徒を舞台上に招き上げ一緒にやってみます。その中でも特に、小学生低学年女子をバレエ団の男性ダンサーが高く持ち上げる“リフト”や、中学生男子がバレエ団女性ダンサーのパートナー役を務める部分は、常に盛り上がり大変楽しいものです。また、人数や体育館の状況によっては、より多くの児童生徒がその場で参加できるような動きも取り上げてみます。第1部の上演中は随時、皆さんに質問を投げかけるなど、なるべく全校児童生徒とさまざまな形でふれあうよう配慮します。

(小学校)

『シンデレラ』の中では、12時の鐘とともに魔法がとけて逃げ出したシンデレラを、王子が残された靴を片手に探すシーンがあります。王子にシンデレラの行方を尋ねられ答える役を児童の皆さんに演じていただきます。事前にワークショップで振付指導を受けリハーサルした部分を、当日バレエ団と一緒に共演していただき、児童のアイデアや個性を活かした学校独自のオリジナル作品が出来上がります。またその他にも、リズムにのった動きに挑戦し、その成果を公演で発表することができます。

ワークショップ参加者の人選については学校側に一任いたします。(クラス単位など、最多約50名を目安とします。)その中より当日10名～20名の児童が公演に参加しバレエ団と共演します。

(中学校)

ワークショップでは、振付家は生徒の個性を尊重しそれを引き出すよう努め、また、はじめての動きにも積極的に取り組めるよう、ダンサーたちが一緒に身体を動かして誘導します。ワークショップ参加者の人選については学校側に一任いたします。その中より、当日舞台上で成果を発表する生徒を選抜し、公演に参加していただきます。

児童生徒とのふれあい

特に、ワークショップから公演まで参加する児童生徒は、舞台の上という特別な場所で緊張感を味わいながら人に伝えることの喜びを体験し、そしてバレエ団とともに舞台を創りあげる一体感を強く味わっていただけることでしょう。そして全校児童生徒の皆さんにとっても、いつもと違う姿に変身した体育館で、自分たちの仲間が出演する舞台を観て、仲間の表現を受け止めることは、特別な鑑賞体験になると思います。身近な体育館で行われることによって、劇場芸術を鑑賞するだけでなく、より親しみを持って芸術団体とふれあうことが可能になります。

また、前日搬入・仕込みをするスタッフたち及び当日のダンサー・スタッフたちとは、校内において何度も顔を合わせるようになります。なにげない会話のやり取りを含め、交流の機会を多く持つよう心掛けております。